

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700186		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホームメドックガーデンビレッジ緒川		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字緒川字栄39番地1		
自己評価作成日	令和2年10月25日	評価結果市町村受理日	令和2年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度のテーマも昨年度に引き続き「尊厳の保持」と「水分の大切さ」を上げ、それぞれの具体的な内容を尊厳については「職員目線をやめ、利用者様目線で発言・考える人になる」ということで、毎月西館東館それぞれ1名ピックアップし、ミーティングでその方との関りであった出来事などから性格や特徴を掴み、出来る限り個別性に富んだ取り組みができるようにしている。水分の方も「便秘改善から心身健康維持・認知症周辺症状の軽減」を上げ、毎月の水分量報告と確認による摂取量アップの取り組み考察と、便秘気味の方への個別の対策などを行っている。新型コロナウイルスの影響により面会や外出の規制がある中で、いかに室内での楽しみや役割を持っていただく工夫を考えながら運営している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「尊厳の保持」については、前年度に続き接遇や言葉使いに対して厳しく指導を続けた結果、職員全体に意識付けができ成果が得られた。また、毎月のミーティング時には「エピソード用紙」を活用して日常の様子から利用者の思いや意向を多角的に捉え、利用者一人ひとりの尊厳の保持に繋げている。社内研修も充実しており、毎月全職員へのスキルアップ15の研修を行い、職員育成にも力を注いでいる。現在コロナ禍で面会や外出制限があるが、1日2回の体操や施設敷地内の散歩、出前やお好み屋敷、おやつレク等で利用者の楽しみに繋げ、身体機能低下や健康、精神安定に努めている。家族面会に対しても、TV電話や面会方法を工夫して関係性が希薄にならないように努めている。今後は世情に合わせ、地域交流を根差した活動を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のうちの1つ「尊厳」についてこだわった形で日々の取り組みを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響でほとんど買い物や外出ができていない。年末年始は交流会や初詣は行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けてというのは機会がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で使用された資料などは職員皆が目を通して。会議そのものが中止になる回もあり、具体的にサービス向上までは至っていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外に向けては管理者が運営推進会議の資料を送ったりしている。町が主催するVRを使った研修に参加した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや研修などでどんな事が拘束に値するかを話し合い、学んでいる。施錠については必要以上に行わないことを見直した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修でどんな事が虐待になるか事例を出して検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり学べる機会はないが、東館で1名後見人が必要になる可能性がある方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。理念や金銭面等も含めて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスを開いて意見をまとめて職員に伝えている。会議等があった際は必ず書面で確認できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	メドックボイスの活用で経営陣に下の意見が届くようにしている。現場単位で出来ることは主に管理者が聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	システムの変更など、努めていると感じるが給与水準などに変化が感じられない面もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の技量の差はあるので、それが利用者様のトラブルにつながらないように、日々のアドバイスやミーティングで発信している。1時間研修と15分の短時間の研修もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での意見交換はパソコンなどを使ってすることができるので少しでも活用していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談は管理者が行い、利用前に必要な情報は得ている。同法人内での転居もあるためパソコンで記録の確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	始めのうちは出来る限り家族に様子などを伝えている。こちらから疑問があれば聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に接してみても気づくこともあるので様子入力したり申し送りで情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大事にしている。本人様にとっての当たり前の生活を意識している。家事などは一緒にやって頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	テレビ面会などを通してコミュニケーションを図っている。昨年末は家族交流会を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話を使って取っている。コロナの影響で面会が中止になったが、特例で9月に面会を実施した。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に体操をしたり歌会をしたりして関わっている。基本的にトラブルにならない限りは利用者様同士のコミュニケーションを妨げないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用されていた方で、今でも絵を持って来てくださる家族様がいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、得た情報をミーティングで発表している。そこから取り組めることを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にフェースシートの情報から拾い上げ、カンファレンス等で参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の検温、必要に応じてのバイタル測定、食事量、水分量の把握。気づいたことは申し送りや記録に入れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当がまずモニタリングを行い、カンファレンスで皆と一緒に経過を追って計画に結び付けるようにしている。少しずつ個別の役割が増えてきている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来る限り気づいた事は入力するようにしているが、時間的に難しい面もあるのでミーティングで話すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のサービスは取り入れにくくなっているため、室内で出来ることを増やすのが課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で難しくなっている。今のところ理美容に来てもらっているのが精一杯。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医とのやりとり、訪問看護とのやりとりで連携を図っている。必要に応じ処置の仕方を教えてもらったり、口腔ケアの方法をアドバイスしてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に週1回来てもらっている。必要に応じアドバイスしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の進行を防ぐ意味でも、出来るだけ早く退院できるよう情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介助量が増えてきた方へは都度サポート方法を見直したりして安全面と自立支援のバランスを考えている。家族にも報告や相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は入社時や研修で行っている。処置の仕方は都度確認しながら行っている。事故や急変時は管理者に報告し、指示を仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練と研修で非難の方法などを復習している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「～か？」と疑問形で声掛けし、相手に決定をゆだねるようにしている。一部敬語は使えていても指示・命令になっている場面もある。声の大きさやトーンに注意しなければならない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中から本人様が仰った事を少しでも取り組みに繋げられるようにしている。例：家族の声が聞きたいという方には電話をかけるプランを実施。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間をずらして1日2食にさせて頂いている方など、個々の生活リズムを考えている。思い思いに部屋で過ごされている方にも、時間を見て声はかけさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたりヘアスプレーを持参されている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切る、炒めるなどの調理過程と一緒にやっている。片付けも自主的にやって下さる方もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を活用し、ミーティングで確認しながら個別の対応方法(好みなど)を考えながら取り組んでいる。水分だけでは難しい方にはゼリーや果物を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口腔ケアスポンジ等を使って、個々の状態に応じた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の時間になるべく合った定期誘導を実施している。ソワソワされる様子があった際も声をかけている。下着を下すなどの動作も出来る限り本人様にやってみようとしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的下剤を使わず頓服で対応するようにし、便秘に効く食材を使ったジュースを作ったりしている。便秘気味の方はいるのでミーティングで振り返っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入って頂ける方には10分置きに声掛けの確認をするなど、職員が入りすぎないようにしている。曜日などはこちらで決めさせて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人様に任せている方もいる。寝ている時の姿勢に注意し、枕などを使って安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように方法を統一し、2重チェックを行っている。錠剤が飲みにくい方へは散剤に変更してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分から「これがやりたい」と仰る方も少ないのでこちらから提案させて頂き、散歩や工作、おやつ作りなど行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で出来ていない。9月に特例で面会を実施した。施設周辺の散歩は行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は買い物等で支払って頂く事もあったが今は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	プランの中でも電話で家族と話す機会を設けたり、暑中見舞いや年賀状を作って送っている。家族から便りが来ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダで花や野菜を植え、テーブル・イスを置いてカフェ気分を味わって頂いた。毎日の温湿度測定と季節に合った設えを実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1～2名で座れるスペースを作って新聞を読んだり雑談している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前から使っていた物を用意してもらっている。壁にデザインできるシートを貼っている方もいる。掃除係の方と協力して清潔維持に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方へは自分で鍵を持ってもらって居室の施錠をしてもらっている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や共用トイレに掲示して常に見えることで意識付けしている(トイレに掲示してあるのは理念をもとにした共通のサービス)	理念4項目の中から1つテーマを支援の目標に掲げ、「尊厳」「水分摂取」に重点を置き、職員全体で支援に取り組んでいる。会議で振り返り、特に言葉使いに対しては徹底して指導しており、職員の意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外に出る機会はほとんどなくなっているが、イベント時は出前を注文したりしている。	区長や民生委員とは推進会議で信頼関係を深めている。施設周辺の掃除を率先して行ったり、災害時に施設が第二避難所として場所提供する等、地域貢献に努めている。住民から野菜の差し入れを頂いたり、ホーム行事に住民を招待したりと地域の一員として周知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまりできていない。一度家族の子供さんが大学の学習テーマにしているという事で話しをする機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が中止になることもあり、発信されたものはないが、議事録に目を通して情報共有は出来ている。	コロナ対策で書面での会議を実施した際には、議事録を出席者に送付して連携を図っている。推進会議では、他事業者の出席もあり、施設運営での困難事例や問題点を周知、共有して、運営の実情を伝え理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡は取っていないが運営推進会議にも参加してもらっているので現状は知ってもらっている。入居相談などで弊所の名前をあげさせていただくことが増えた。	市町村担当者との関わりは、法人事務担当者が窓口となっている。コロナ対策等は担当者を通じて情報収集や相談をして、運営に反映している。県市町村の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に説明を受けている。カンファレンスなどで本人にとって良い方法を考えているがスピーチロックがやや課題。	マニュアルを整備し、新人研修や年計画で職員研修を行い、身体拘束への認識を統一している。ミーティングではアクセントに触れ話し合い、転倒リスクがある利用者への見守りの徹底やスピーチロック等、拘束行為のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あからさまな虐待は無いにしてもグレーゾーンについて研修等で学んでいる。グレーゾーンを放置していると虐待に発展してしまう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	初任者研修で学ぶ機会があったがその後はあまり触れる機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に運営方針などを説明し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議でこちら側の意見と家族の意見に相違がないか確認している。ケアプラン更新時も今は直接会うのが難しいので手紙を添えて確認、了承を頂いている。	何かあれば電話やラインで日常の様子を伝えている。家族からの要望は些細な事でも対応し、その様子を随時伝えている。コロナ禍での面会方法を工夫し、テレビ電話や居室窓越しと駐車場での対面、今後は中庭からガラス越しでの対面を計画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見は管理者に相談し、出来ることから対応してもらっている。賞与のタイミングに合わせて面談は行っている。	職員からの提案は、できる事は実践してサービス向上に努めている。メドックボイスという法人に要望を伝える体制や年2回の面談、SNSのチャットの活用で気軽に相談できるシステムを取り入れ、働きやすい環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足の時は残業が重なり、やりがいを見出すところまでいかないこともある。金銭面の不満もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はほぼ全員の職員が参加できるので学ぶ機会はある。学んだことが活かされていないと感じることはある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議のメンバーに他のグループホームの人が参加している。意見交換は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報や入居前の面談での情報をもとに、どんなサポートが必要か考えて実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り情報を伝えるようにして安心して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは面談時の情報をもとに取り組む。早く馴染んで頂く為にコミュニケーションを多くとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	世間話や昔の話など、雑談で普通の会話をすることを意識している。みんなで家族のような雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族に家での様子がどうだったか聞いたり相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会が中止になったりしたが、それ以前は家族はよく来られていた。昨年末は交流会を開き、年明けは初詣にも出かけた。	墓参りや冠婚葬祭、帰省や希望の外出は家族と連携して実現しているが、現在はコロナ対策にて自粛している。手紙や年賀状、電話の取次ぎ等のやり取りを支援している。将棋や編み物等の趣味が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士を同じ席にし、会話して頂くよう雰囲気作りも含めて努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方との関りはほとんどない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランのモニタリングを通して検討している。ミーティングで1名ピックアップして嬉しかったことや出来たこと、出来なかったことや悲しいことなど共有し、本人様の願いを掘り下げて考えている。	入居時の面接でアプローチを見つけ、入居後それに沿って声掛けや対応をし、思いや意向をとらえるようにしている。また毎月ケアプランの更新にあわせ一人に焦点をあわせ職員がそれぞれその人について深く観察しつつ接することでその人の思いや好みなどの再発見につなげ、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本的には入居時のフェースシートを参考にしている。追加で情報を得たい時は本人様や家族様に尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつもと違う」と思うことがあれば共有するようにしている(歩行状態や食事の様子、身体の状況など)。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは現場職員から意見を出し合い、その後計画作成者→管理者→家族へ相談し更新している。	6か月ごとに計画を見直している。そのタイミングで全体で更新の人について掘り下げモニタリング、その結果を計画作成者に伝えている。管理者が家族に変更計画を説明し、了解を得ている。退院後など変化があれば都度計画は見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子や会話などは良いことも良くないことも記録しているが、まだ十分とは言えない。職員の裁量に委ねられている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまりできていない。コロナの影響も大きい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージなどは必要時依頼している。食事は利用者様と一緒に準備出来る食材を外部業者から取りよせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回(利用者様によっては月1回)往診を受けている方がほとんど。併用して定期的に受診している方もいる。その場合は介護要約を渡している。	もともとのかかりつけ医を家族対応で受診している人もいるが、協力医との併用であったり、協力医への変更をした人もいる。協力医とは24時間連絡が可能で、他科の受診の際には情報の提供や医療間の連携を手伝っている。毎週看護師の訪問がある。歯科は都度訪問してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師へ1週間の様子を伝え、見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者がカンファレンスに出向いている。退院後は要約を参考に情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際には行っていないが、入居時に説明はしている。	医療行為が入らない場合、看取りに向かうこともあるが、できること、できないことがあり、入居者の状態を医師が判断したうえでのことになると入居時に説明している。看取りの時期に入った場合は家族と話し合い、同意を得るが、実際に看取ったことはまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は入社時に受けている。研修で消防署の方に来てもらった事もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員ではないが、年2回の避難訓練を実施している。研修でも避難方法の確認をしている。	年に二度、避難訓練を行っている。避難場所についても訓練以外で研修で確認している。第二避難場所指定を受けており、緊急時に近隣の人を受け入れる用意もある。消防署立ち合いで避難経路や場所について再確認するつもりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持はチームのテーマでもあるので言葉遣いはもとより、その方の特徴を知る事でその方に合った関わり方を見つけるようにしている。	年間の取り組みの重点に尊厳の保持を掲げ、全員で取り組み、内部研修を重ねることで職員の言葉の選び方や接し方に変化がみられるようになった。毎月、入居者の一人をピックアップして深く接することで、その人となりや特徴を知り、職員間で共有するようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リクエストの昼食を週1回行っている。ビールが飲みたいという方にノンアルコールではあるが提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や気に入った場所など本人様の好きな事を出来るように努めているが、職員に合わせてもらっている場面もなくはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服や入浴時の着替えなどは選んで頂いたり、一緒に準備したりしている。マニキュアを塗って頂くなど企画している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に偏りはあるが一緒に準備して、職員も全員ではないと一緒に食事を摂っている。片付けも職員だけでやらなように洗剤やお皿拭きを手伝って頂くようにしている。	業者の献立と材料を使い、ホームで調理した料理を提供している。週に一度はお好みメニューの日を設け、入居者からリクエストされた料理を作っている。誕生日や正月などに特別な献立を提供することもある。おやつレクは皆が楽しみにしている。できる人には下ごしらえ、調理、配膳などを手伝ってもらう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は毎月ミーティングで報告し、水分量アップに努めている。フルーツなどを使ったスムージー等を作って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後実施している。人により追加で口腔ケアグッズを購入したりしている。定期消毒で物品の衛生管理もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ案内のタイミングが合わない場合は一定期間データを取り直し、スケジュール変更に反映させている。	チェック表の使用やトイレ誘導を行っているが、失敗が重なったりするとその人のデータを取り直し、適切なタイミングで声掛けや誘導を行えるよう、個人にあわせ見直し、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量アップや乳製品の摂取など利用者様によって対策する様にしている。おやつにスムージーやヨーグルトを積極的に取り入れている。家族様に依頼する事もある。実際に下剤が減った方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方は週3回予定を組んでいる人もいますが、曜日などは職員が決めさせて頂いている。シャンプーやボディソープなどは身体に合ったものを使う様にしている。	基本、週に二度の入浴をしている。拒否があれば言葉がけのタイミングや職員の変更で対応している。入りたい希望が強い人は週に三度予定を組んでいる。暑い時期のシャワーや汚染時は都度対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり寝られていない方には日中の活動量を増やすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に情報を伝えて場合によっては薬の変更もあるので、変更があった場合は申し送るようにしている。その後の経過も確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のケアプランに役割や楽しみ等を記載してスケジュールに反映している(写真や絵を見て会話、将棋、縫い物・・・など)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は定期的買い物に行くことは出来ていたが、その後は行なえていない。	新型コロナの影響がない時には、買い物や喫茶、外食などでかけているが、現状はホームのまわりを散歩するにとどめている。ホーム内の階段や中庭も運動や外気にふれる機会として利用している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で小銭入れを持っている方もいるが、日常使うお金は事務所で預かっている。週1回自販機でジュースを買っている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には積極的に書いて頂き家族様に郵送している。家族様の希望でテレビ電話で会話も楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花や飾り物を工夫し、出来る時は利用者様と一緒に飾らせて頂いている。室温は快適な温度に保っている。「きれいな所だね」と利用者様が仰っている。ベランダの設えをカフェ風に工夫した。	ゆったりとした作りの居間は日当たりもよく、居心地がよい。各所に生花や造花、植物がおかれ、また廊下やエントランスに季節のものが飾られている。ベランダにテーブルと椅子を置き、カフェを演出している。また、ベランダにクリスマスの飾りをして、季節を体感してもらおうとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と同じ席にしたり、一人が好きの方は窓際にスペースを作り過ごして頂く工夫をしている。廊下の出窓部分にテーブルとイスを置いてそこで過ごしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	おおよそ家族様が設えたものがほとんどだが、馴染みの家具や写真を持って来て頂いている。物があちこち散乱しないように整頓している。	居室の扉横には入居時に文字の形やデザインを選んでもらった表札がかけられている。それぞれが使い慣れた家具やベッドをもちこんでいる。テレビや、ラジオを置いたり、写真や製作物を飾っている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様が出来る事はなるべくやって頂き、楽しみながらやれるように心がけている。廊下は5m間隔で座れるようにベンチが整備されている。		